

## 2021年度 日本作業科学研究会第16回総会 議事録

1. 日時：2021年9月11日（土）10：00～10：50

2. 場所：オンライン（Zoom）

3. 議長団選出及び書記及び議事録署名人の任命

議長：西方 浩一（文京学院大学）

書記：小田 原悦子（自宅）

高島 理沙（北海道大学大学院保健科学研究院）

議事録署名人：吉川 ひろみ（県立広島大学），

宮本 年也（阪奈中央リハビリテーション専門学校）

4. 定足数報告

2021年9月11日現在の会員数（2021年度会費納入者）180名。総会成立のためには会員数の3分の1である60名の参加が必要。総会参加者15名，委任状提出86名，議決権行使書14名，合計115名で総会が成立した

5. 議案と議事の経過

**第1号議案** 2020年度（2020年7月～2021年6月）事業報告

各担当理事より2020年度事業報告が行われた。

→議長が議場に質問意見を求めたが，質問および意見はなかった

その後，議長が本議案を採決し，本議案は圧倒的多数の賛成を得て可決された

**第2号議案** 2020年度（2020年7月～2021年6月）決算報告・監査意見書

事務局 坂上真理（札幌医科大学）より，2020年度決算報告を行った。また報告された内容について，坂上真理（札幌医科大学）より，欠席した会計幹事に代わって監事意見書に基づいた監査の意見が代読された

→議長が議場に質問意見を求めたが，質問および意見はなかった

その後，議長が本議案を採決し，本議案は圧倒的多数の賛成を得て可決された

**第3号議案** 2021年度（2021年7月～2020年6月）事業計画及び予算案

各担当理事より2021年度の事業計画および予算案が報告された。

→会長 近藤知子（杏林大学）より現状に合わせて会則の表現や組織の在り方を見直して改革していく予定であるとの報告の後，各担当理事より2021年度の事業計画および予算案が報告された。

→議長が議場に質問意見を求めたところ，吉川ひろみ（県立広島大学）より，会則を見直す際には，名誉会員の規定も盛り込んで行っていただきたい旨の要望があった。会長 近藤知子（杏林大学）より，今後検討していくことが確認された。

→その後，議長が本議案を採決し，本議案は圧倒的多数の賛成を得て可決された

**第4号議案** その他

## 1. 次期日本作業科学研究会学術大会開催地の件

会長 近藤知子（杏林大学）より、次期（第 25 回）日本作業科学研究会学術大会開催地として長野県が推薦された。

→議長が議場に質問意見を求めたところ、川端佐代子（UNC）より、学術大会はオンラインと現地とのハイブリットでの開催にすることが検討されているかどうか質問があった。現地開催だけでなくオンラインでも開催できれば、特に遠方の参加者にとってはより便利ではないかという意見であった。

長野県での学術大会開催の準備を進めている副会長 中塚聡（諏訪共立病院）より、現時点では、新型コロナウイルス感染症の状況が改善されていれば、2022 年 10 月頃に長野県の現地に参加者に来ていただいて開催することを想定していたことが報告された。しかしながら、世界的にハイブリット開催の学会も増えており、そのメリット・デメリットも勘案して、今後、研究会の中で改めて検討していくことが述べられた。

→その後、議長が本議案を採決し、本議案は圧倒的多数の賛成を得て可決された

→第 25 回 日本作業科学研究会学術大会の準備を進めている中塚聡（諏訪共立病院）より、2022 年 10 月頃の開催を目指して検討を重ねている旨の報告があった。大会長は現時点では未定。作業科学の初学者、中堅、ベテランに幅広く興味を持っていただける内容を企画中であることが報告された。

## 2. その他

報告は特になかった。

- \*議長から、以上をもって本総会の議事が終了した旨が述べられ、閉会が宣言された。  
当議事録が正確であることを証するため、議長並びに議事録署名人が次に署名捺印する

日本作業科学研究会第 16 回総会

2021 年 9 月 16 日 議長 西方浩一



2021 年 9 月 25 日 議事録署名人

吉川みづほ



議事録署名人

宮本年也

